

設問 1 (活動内容や環境の変化)	
貴団体の活動内容やまわりの環境について、過去と比べてかわってきたことはどんなことですか？	
分野	内容
まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ここ数年回数を重ねる度に参加者も増え、法人への相談問い合わせも増えてきた。 ・自宅が将来どうしていかないといけないのか考える所有者が増えてきている。
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・約8年間「里山の再生と保全、利活用」をテーマに活動。 ・「再生」については北摂里山大学の修了生を中心に新たな里山放置林を再生する活動が芽吹いて来た。 ・「保全」は再生と同時進行のものであるが外来種の駆除や獣害、ナラガレなどの対策を環境に影響をあたえないやり方で行っている為、その労力と費用が負担となって来ている。
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境では、メダカやホタルが少なくなった。 ・田畑が少なくなり、畦に外国から来た帰化植物が生えていることが多い。 ・特定外来植物は行政が駆除すべきだが、ボランティアに任されている。
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・温暖化防止や環境破壊の原因となるプラスチック削減。 ・食品ロス・ごみの減量・分別リサイクルの必要性。 ・地域において、各種活動を通じ、健康で明るくきれいな住みよい町づくりの推進により清掃・ゴミ減量施策・分別等の定着化。
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・婦人会加入者の減少。 ・地域活動に参加しない人の増加。
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレや休憩所が整備し、管理されている公園が増加し、安心して活動できるが、昆虫を持ち帰るには申請が必要であり、許可を貰うことが困難。 ・観察しやすいが、ありのままの自然に親しみ、自由に昆虫を持ち帰ることができるようになればいい。 ・以前は中高生のグループ参加もあったが、現在、中高生はいない。
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術の専門家の支援と交流を考える団体。 ・市民の中から会員を選出していたが、会員の活動の場が大阪に広がり、市民独自のものが出にくくなっている。
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・文化施設の貸出しにて、ダンスや音楽教室の頻度・人数が増加傾向にあるが、日舞・和楽器・茶華道などは講師の高齢化とともに生徒が著しく減少している。 ・利用者の平均年齢の向上。
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・高いギャラを支払い、一流アーティストを招き、市民に鑑賞の機会を設けていたが、地域に根差し、市民文化を振興する活動が主体になった。
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・地域文化・スポーツ文化のリーダーおよび参加者の高齢化。 ・用具類(ラケット・楽器類等)高級化。 ・スポーツウエアや衣装のファッション性の高度化。 ・利用団体の高齢化と大型化。
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・協会を支える人、活動する人の高齢化。 ・後継者の育成が困難。 ・和の文化を支える若者が少ない。

芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・一般イベント参加は毎年増加傾向で推移。 ・開催趣旨を十分発信し開催しているが、参加者がそれを理解して来場しているのかについて疑問がある。
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスにより、全てのコンサートが中止または延期。5月末より入退館時の消毒や手洗い、フェースシールド着用等の細心の注意を払いながら、再開。合唱団は9月の演奏会に向けて何とか練習を再開するため、出席出来ない団員は、当初オンラインによる練習参加の方法で始めた。少人数であっても通常120人収容のホールを使用して練習を継続。
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・会員数の減少。会員の高齢化に伴い、活動内容や範囲について新たな分野に取り組むことが困難となっている。
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・事業運営の重点を、市民ホールの施設管理業務から文化事業に移し、個性的で質の高い文化事業を効果的に推進するため、文化芸術に関する専門的団体になることを強く求められている。このため、文化芸術に経験や人的ネットワークを備えた専門職員を採用し、専門性の向上に努めるとともに、明確なポリシー、ミッションを持って文化事業を展開するようになった。 ・兵庫県立芸術文化センターの開設に伴い、同センターと当財団の役割分担や活動内容の棲み分けが求められるなか、バランスのとれた事業ラインアップの実施に腐心している。
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館がなくなり、小さな単位の学習館が閉鎖され、気楽な寄り合い学習活動をする場所がなくなりつつある。 ・趣味や健康体操、子育ての会などのグループが減少傾向。
国際交流	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人向け日本語教室受講生の大幅な増加。 ・在留資格別では、技能実習生、技術（技術・人文・国際業務）の方が多い。 ・出身国別では、ベトナムやフィリピン、インドネシア等の東南アジア出身が多い。 ・外国人労働者雇用をしている企業から日本語教室に関しての問い合わせも増加。 ・平和推進では、戦争経験者の高齢化と減少に伴い、経験者が体験談を直接語り継ぐ形態から、映像や冊子など形に残るものを作成し、次世代に語り継ぐ必要がある。
国際交流	<ul style="list-style-type: none"> ・30年前の設立当初は姉妹都市交流の民間支援中心であったが、近年は在住外国人の増加に伴い、生活支援の比重が大きい。 ・ここ数年は、技能実習生などの来日が増加し、過去にない新しい対応が増加。
福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会（周囲の環境）との関係性構築が困難な状況な方の、ひきこもり等社会的孤立の問題の増加。 ・世帯単位で複合的な課題を抱えた方が多くなっているなど福祉の領域が広くなり、高齢、障がい、児童、生活困窮などの縦割りの法律・制度では、対応が困難な狭間の支援が必要となっている方が増加。
福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭内で超高齢化と少子化に伴い、老老介護や引きこもり、ニート等様々な問題が起こっている中、住民（近隣）同士の繋がり希薄化。
福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・男性向けの料理教室の増加。 ・女性のいずみ会リーダーの高齢化が進み、県や市の事業展開が困難。
福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代が子育て、就労で活動できず、活動者が高齢化し、減少傾向。 ・60～70代は時間的ゆとりもあり、元気で経験・実績があり、貴重な人材である。

福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・2025年に向けて高齢者が増える過渡期にあり、宝塚市内ではサービス付き高齢者向け住宅が多い。施設の待機者がいないが、お金がなくなり、特養に入所する人が増えた。 ・約15年前に施設を開設した当時は、認知症の方の徘徊、奇声など近隣住民から心配されていた。地域の中で共存するために自治会の特別会員となり活動してきた。 ・今では、地域の方からの要望で敷地内で子供を遊ばせ、こども食堂、双子の会、不登校の会、喪失の会、いきいき100才体操など、施設が活動の場となっている。 ・長い年月をかけて地域の方に理解してもらえるよう活動してきた。
福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・現在はNPO法人であるが、2011年に任意団体としてスタート。活動当初から少子化は言われていたが、この10年でさらに進んだ。 ・10年前は人が集まったが、今は少ない。 ・対象年齢は、3歳くらいから0～1歳に変わった。 ・子育てメニューが多様化し、支援を受ける側がメニューを選択できるようになってきている。 ・子育て支援のニーズの多様化。 ・小規模での個性化。
地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・露出が増え、地域に貢献できる活動が増えた。
地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ママ起業家との繋がりも出来たが、続かず業種を変えたりしている人が多い。
青少年	<ul style="list-style-type: none"> ・参加協力いただける団体が固定化し、活動内容がマンネリ化している。 ・今後今以上に活動対象団体の活性化をはかる必要がある。
青少年	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども会を担う人材不足。 ・子供達の活動の多様化(子ども会入会者減少)。 ・保護者に余裕がない(地区子ども会の消滅)。
青少年	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者、大人達が組織、団体に関わることを嫌がる傾向が強まった。 ・保護者や大人達が自分の自由を他のことで束縛されたくない、自分の子どもだけ良ければ他人の世話までしたくないが、興味のあるサークル、催し等には参加する。 ・保護者や大人達の選択肢が大きく広がり、家族最優先思考が原因。
社会活動	<ul style="list-style-type: none"> ・当法人は市民活動センターと男女共同参画センターの指定管理者だが、市民活動と男女共同の活動比は、9:1から6:4くらいに変化した。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・PR告知物がここ数年、多国語対応用のものが製作されるなど、インバウンドを意識したものとなっている。 ・少子高齢化などに伴い、バリアフリー設備やホームドアの設置が進むなど、安全・安心に利用できる環境整備が求められている。 ・環境へ配慮する意識が社会全体で高まり、騒音や振動の対策の要望が強い。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道事業だけでなく、不動産業やエンタテインメント業といった多業種への参画・展開。 ・鉄道事業においては、近年お客様から所要時間の速達性だけではなく、乗り心地や接遇といったサービス面などCSの向上に力を入れている。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・沿線が1970～1990年代にかけて集中的に開発された住宅地であり、一時は乗降客数が増加傾向にあったが、近年は少子高齢化が進み、生産年齢人口が減少したことにより、当社の乗降客数が年々減少傾向にある。 ・新名神高速道路が開通したことにより、2021年度には物流倉庫(猪名川町・箕面森町)が建設され、沿線に新たな雇用の創出が見込まれることに加え、沿線南部に大型商業施設が開業し、人の流れが活発になっている。

産業	<ul style="list-style-type: none"> ・乗務員確保難（特に大型２種免許保有者の減） ・外国人利用者の増加。 ・ICカード利用率の向上。 ・旧尼崎市交通局からの事業受託。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・免許返納者数が増加。 ・連転経歴証明書によるバス利用者数。 ・渋滞への対応として、路線バスの遅延状況が見える化。 ・バスロケシステムの整備で、スマートフォンからのバスの現在地、到着予定時刻が分かる。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街の店舗数の減少。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・川西市内の小規模事業者は、近年、既存事業だけでは消費者の多様化するニーズに応えきれず、常に新たな事業展開を模索していかなければ、地域での事業継続が困難。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化が進む中で次世代の三田市及びその近郊の産業を担う若い世代の経営者が着実に育ち、特に当商工会青年部においては、部員増加率が全国一位となった。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・中小企業・小規模事業者にとって、景気回復の実感に乏しく、経営者の高齢化や人手不足といった構造変化に直面している。 (事業承継・働き方改革・消費税税率引上げ・軽減税率制度導入など)

設問2（地域や社会の課題等）	
現在、貴団体（個人）が活動時に感じる、地域や社会での課題や問題点はどんなことですか？	
分野	内容
まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・増加した空き家を適正管理していき、次のステージへ流通しやすい状況を作ること。 ・「古民家」は魅力もあり、積極的に利活用なども可能だが、4、50年前に多く見られた大規模ニュータウンは区画面積、住宅規模、築年数、立地条件がほぼ同じであり、流通に出回る時期も重なるため売却価格を下げることで競争になってしまい、その結果地域の物件価値まで波及し下がることになる。
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・里山の再生をおこなう団体は必ずその地域の住民が中心ではない。 ・「よそ者」の集まりであるので地域との温度差が生じる。 ・地域の人にとっては何のための活動なのか理解できない場合も多い。 ・里山が再生されることで復活した絶滅危惧種の盗掘が頻繁に起こっている為、保全活動の成果を十分にPRできない状況。 ・北摂里山の多くが市町の所有地で土地開発で取り残された斜面地にあるので一般の立ち入りを禁止しており、来訪を促しにくい。 (団体の活動日、開放日、イベント開催に限られている)
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化。 ・色々な活動団体との連携が大切。 ・類似団体が多い中、少子化に伴い今後どう連携していくのかが課題。
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回市内全自治会による地域清掃としてクリーン作戦実施の定着はしたが、参加者が高齢者主体のため、学校等の学生や若年層の参加体制の必要性。 ・地域役員も高齢化傾向にあり、交代しにくい。
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動主体の高齢者化。 ・地域の関わり合いの減少。
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・自然に関する指導者の減少。
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・催しに多くの観客が来るようになったが、生活手段を芸術にすることや専門職としての場が多くない。 ・絵画造形系の専門家は多くない。 ・芸術系大学の活気がない。 ・大学との連携の必要が必要である。
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・団塊の世代が地域回帰により、各施設の利用やボランティアの参加が一時的に増加したが、人手不足か不況により仕事に戻ってしまい、施設での活動が減少した。
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・文化は人が生きていく上で必要という意識が行政内で薄く、他の行政分野と比べ後回しにされることが多い。 ・行政の効率化のための指定管理者制度は地域文化振興の面で問題が多い。
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・演劇活動の衰退と合唱活動の高齢化。（女性が9割）
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・公務員が、情熱をもって考え取り組み、市民とともに汗をかく気持ちが必要だが、感じられない。

芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統・継承文化についての認知が希薄であり、実生活での必要性が感じられないという考え方。 ・ 心の遊び・ゆとりについての教育の欠如。
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナウイルス禍で、早急に対応を迫られたのが、インターネットによるオンライン化。 ・ 先進国でありながらIT分野においてはかなり遅れている現状を露呈したと思う。
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当団体の活動に地域や社会の方々の興味・参加は一定数あるものの、減少傾向にある。 ・ 若い参加者の減少。
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当財団の事業は市内の芸術関係団体と連携して実施しているものが多いが、団体によっては役員等の高齢化が進み、次世代を担う新たな人材が育っていない場合がある。 ・ 地域の文化芸術分野においても、する人、支える人など担い手不足が今後、より深刻化していく可能性が高く、事業実施に当たっての負担となっている。
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の知恵を活かし、地域の自治を支援する仕組み、場所が必要。 ・ 日本人が日本人でなくなりつつあるように感じるので、日本古来の伝統、行儀作法などを子どもたちに教えるおとが大切な取組になると思う。
国際交流	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外国人と日本人、または外国人同士が交流できる機会や場が十分でない。 ・ 外国人を支援対象として扱うばかりでは外国人の自己肯定感が低下するので社会参画を促し、自身も社会の構成員の一員であると意識づける必要がある。 ・ 外国にルーツのある児童・生徒に対し、日本語学習と母語・母国文化の継承の両立。
国際交流	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外国人などいわゆる「弱者」に対し、今回の新型コロナウイルスを含め自然災害などの対応が十分に行き渡らない。
福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域活動の担い手の高齢化、固定化。 ・ 自治会等地縁組織が弱まり、活動中止など存続の危い状況が顕著になっている。 ・ 単身世帯の増加に加え、近隣関係では、マンションのオートロックや表札が無い家など、近隣関係のつながりが持ちにくい状況にある。
福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の買い物支援。(買い物難民)
福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共に活動推進をしていく人材が増えない。 ・ 単身、子育て世代に自身と家族のため、健康のための食生活を伝える機会作りが困難。
福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・ 訪問介護事業者の減少している。 ・ 施設ができてから自治会、コミュニティの中心的役割の人が同じで代替わりしていない。 ・ 次世代の担い手がいない。 ・ 若い人が自治会のニーズを感じていない。
福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援の循環を目指しているが、受け手と提供者が分化している。 ・ 支援を受けた人が支援する側になり、お世話になった感覚を次の人に伝えることを大事にしたい。 ・ イベントの規模が大きくなると、行政が行うサービスのように受け取られ、主催者へ注文やクレームがいく。 ・ 利用者を受け身にせず、全員で参加するイベントにしていきたい。

地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・サイクルマップはあるが、スポーツサイクルを借りることができる場所（サイクルステーション）がないので、手軽に始めれない。 ・県内では播磨中央公園にサイクルステーションが出来るようだが、1か所だけは意味がない。 ・県民局エリア毎に1か所は整備が必要。
地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・近所のママ同士が知り合いになれば、地域の情報がSNSでリアルタイムに入手できるため、自治会加入者が少ないと思われる。 ・共働き世帯増加で自治会のために時間をさけない。 ・イベントは、地域によって盛り上げ方が違う。 ・起業については資格を取ったから仕事出来るわけではないので、行政やその他のサポートが必要である。
青少年	<ul style="list-style-type: none"> ・各種団体の活動活性化をはかるため、各団体のキーパーソンへの支援や関係を深めると共に、活動補助対象の多様化をはかる。 ・広報支援、地域への認識を高める。 ・Webを活用した広報支援やITスキルの向上対応プログラムの実施。 ・地域での自治会活動への働きかけを拡大する。
青少年	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との繋がりの希薄化（核家族の増加）。 ・私的活動が中心に。
青少年	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者は、子供達のためならと協力するが、それ以外の大人達は男女とも仕事に追われ、断れない地域活動は別として、関わらない。 ・仕事により、参加しないことが人と人の繋がりを疎遠にし、孤立を助長・こころの豊かさを醸成する何かが必要である。
社会活動	<ul style="list-style-type: none"> ・NPOはボランティアマインドが大きく、ビジネスとしてファシリテーションなどの理解が得られにくい。 ・高齢者支援や子育て支援などは分かりやすいが、中間支援業法人は対価が得にくく、まちづくりのシンクタンクなどに近いもことをしなければいけないが難しい。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化が進む中で、地域で活発に活動する高齢者、アクティブシニアの存在が注目されている。 ・弊社が行うイベントや観光事業などでも、アクティブシニアと協働していくことが必要となっている。 ・シニアだけでなく、子育て世代（30～40代等）が仕事や育児以外の社会的活動に参加できるよう、イベントや観光事業のPRの積極的な実施していく必要がある。 ・バリアフリー設備やLGBT当事者も使いやすい施設の整備が求められている。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道事業において、お客様からのご要望が年々増している安全性の確保と、事業者が求める運転保安の向上を実現するためのホームドアの設置や立体交差化工事等のハード面での対策には莫大なコストと時間がかかること。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・沿線の空き家件数が増加傾向にあること。 ・地域の課題を解決しようというキーパーソンが少ない。 ・沿線地域全体の知名度やブランド力が低い。 ・核となる地域の観光施設が存在しない。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の利用増による車内事故対策。 ・行政による道路整備（渋滞の緩和）
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者運転が原因の交通事故率が減らない。 ・高齢者の社会参画、労働参加の必要性が高まっているため、移動手段の確保が課題である。 ・スーパー閉店に伴う買物難民の増加、寂れる中心市街地。 ・ラストマイル問題（バス停から自宅までの移動手段がないこと）の発生。 ・学校統廃合に伴う通学手段の確保。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の商店街離れ。

産業	<ul style="list-style-type: none"> ・後継者難が生じ、事業継続が大きな問題 ・派遣社員、契約社員・嘱託など非正規雇用も含め、雇用形態の多様化が進む中、若年層の雇用が市外へ流出するなど市内事業者における地域雇用の人材不足が進展している。 ・正規職員に比べて所得の低い非正規雇用での生活維持をする世代も増加し、消費所得の損失につながり、地域経済にも影響がある。 ・人口減少の進展は避けられず、地域全体の消費縮小がさらに進行し、地域事業者の営業継続への悪影響がもたらされる。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・農村部の農家や都市部の小規模事業者において、経営者の高齢化や事業承継問題が深刻化。 ・市内外への大型量販店の進出により消費者の消費に対する思考の変化が小売業等小規模事業者の経営に大きな影響を及ぼし、事業規模の見直しや廃止等の現象が見られる。 ・最近では「新型コロナウイルス感染拡大」や「自然災害」「事件、テロ」といった緊急事態が起きた際、事業資産への被害を最小限に食い止め、中核事業を継続させていち早く事業全体を復旧させるために、平常時や緊急時における様々な対策や方法をまとめた事業継続計画が(BCP)が重要となってきている。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・猪名川町域の大半を占める市街化調整区域では、企業などの立地、起業が困難である。
ツーリズム	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント開催時における開催場所周辺の住民の理解を得ること。 ・地域と行政の目指す方向性のすり合わせが困難。

設問3 (将来において存続するもの)

2050年を展望したときに、変わらずにあり続けると思うものを3つ以上お答えください。なお、有形か無形かは問いません。

分野	内容
まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 宗教 ・ 戦争への憎しみや平和への思い ・ 人の感情(喜怒哀楽) ・ 衣食住(人は衣服を着、食べ、住居という器に住む) ・ 人のツバメを見守る暖かい気持ち ・ 女性の美容に対する気持ち ・ 歴史的建築物の保存 ・ 自然災害
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感染症を引き起こすウイルスが自滅するかワクチンと薬が世界的に行き届かない限り、日本が鎖国にとどまらず村社会化すること。
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 希少種の保全維持活動 ・ 心豊かな社会生活
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大型遊園地(東京ディズニーランド、USJ) ・ 公共交通機関 ・ 自治体及び行政機関
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の支え合い ・ 子供の見守り(登下校風景) ・ 家庭愛
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昆虫館友の会
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 街角のベンチ ・ 植木や植木鉢 ・ 神社や寺
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 田園風景 ・ 公共交通機関 ・ 演劇・音楽・美術・スポーツを楽しみ、学びたい時にアクセスできる。
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人と人との結びつき ・ 自然と緑 ・ 宝塚歌劇
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・ インターネット ・ SNS ・ ボランティア活動(幼児のあそび教育、老人の健康促進、移動支援) ・ 介護(老老介護・生活援助) ・ 生活保護(無年金問題)
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族、仲間への愛情 ・ 品格 ・ 1人1人を大切にする社会
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・ インターネット ・ 公共交通機関 ・ 義務を果たさず、権利のみ主張する人達の醜い争い
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・ インターネット ・ 専門分野を特出させた病院 ・ 有料高齢者施設 ・ 美容院

芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・「物質的豊かさ」から「心の豊かさ」への志向の変化
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・安心、安全に住める街 ・子どもの通学補助 ・テレビ会議システム（どのような状況下でも話し合える環境） ・古来よりの日本文化（お祭り、茶道、武道など）
国際交流	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通機関 ・インターネット ・公園
国際交流	<ul style="list-style-type: none"> ・公園 ・お祭り ・思いやり
福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・思いやりの気持ち ・人とひととのつながる場 ・子どもの成長への大人の関わり
福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット ・高齢者施設（デイサービス、グループホーム等） ・宅配サービス
福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット（時空を超えた繋がり） ・自治会（支え合える近所） ・地域の行事（世代を繋ぐ）
福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通機関 ・インターネット ・公園 ・ボランティア活動 ・コミュニティ活動
福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・公園 ・通信販売とそれに伴う物流
福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの成長シーンにおける発達の課題と親の葛藤・悩み ・小規模でも子ども同士の交流の場。集団でないと学べないことがある。コロナでその機会が奪われた子どもの成長にどのような影響を与えるか心配である。
地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車、車、電車などの乗り物は、形は変わるがなくなることはない。 ・自転車の安全対策は必要。
地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット活用 ・家族の大切さ ・人とのつながり、ママ同士のつながり ・思いやり
地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・助け合い ・小さな行政 ・音楽やアートなどの文化系のもの
青少年	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットの利用分野の拡大（ネット決済など） ・スマホの活用範囲の拡大 ・地域の祭り（秋祭り、盆踊りなど） ・介護施設の多様化 ・家族の絆の深まり
青少年	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の祭り ・宅配 ・インターネット ・公園

青少年	<ul style="list-style-type: none"> ・家族愛 ・公共交通機関 ・インターネット
社会活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジョンを描き、バックキャストで想定する。 ・ZOOMなどが加速するかもしれないが、人と人が連帯することが、何かを動かすこと条件。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・瀬戸内海の美しい環境や六甲山などの比較的容易に行ける山々 ・家族愛 ・伝統銘菓・伝統芸能、寺社仏閣を含む景観 ・カウンセリングや医療行為など、AIには難しい、コミュニケーションを伴う職業 ・映画鑑賞、読書、音楽鑑賞などの一人自宅で楽しめる娯楽 ・異常気象に伴う自然災害の被害の増大、環境に対する意識
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・通勤通学時間帯における朝ラッシュの光景
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・循環型社会(再生可能エネルギー等) ・デジタル経済圏 ・AI技術 ・電気自動車 ・宗教
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル化の推進 ・交通弱者の移動機会の増加 ・異常気象
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリー ・健康意識 ・緑地公園
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・利便性の追求 ・人との繋がり ・イベント
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・文化(音楽、美術等) ・スポーツ ・仲間と食事を楽しむ ・人との交流
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・三田の特産である「三国米」「三田牛」等の生産 ・出産から子育てまで安心して住める医療環境 ・街の賑わいを醸し出す「あきんどまつり」など多種多様イベント
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・学校 ・インターネット ・家族愛 ・自然
ツーリズム	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通機関 ・インターネット ・市民それぞれの思いやり

設問4（地域の目指すべき方向性）	
設問2の課題や問題点を解決し、未来へとつなげていくためには、地域、社会、行政はこれからどのような取組が必要だと思いますか？また、貴団体（個人）の活動で未来につながる取り組みがあれば、教えてください。	
分野	内容
まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・現在当法人では「家」のエンディングノートを現在作成中である。これが普及することにより問題が大きくなる前に「家」の方向性を先に定めることができる。 ・空き家が増え、人口が減る動向を考えると流通や利活用の場合、都市計画法や建築基準法が支障となる場合がある。 ・今般のコロナ禍により都市集中の都市構成や住み方、働き方も変化する。
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・「世代交代」を待つのみ。
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅地や道路整備など大きな面積開発ではなく、都市の中に生物環境を活かした大きな自然公園を作ること。開発から自然を守り、人口の都市集中を防ぐ。 ・未来へ残しておきたい動植物の保護
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会の加入率向上のため、加入向上を図るとともに、役員の新陳代謝が必要。 ・日常の問題点を把握できる環境整備と、これをサポートする自治体との連携。
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域への声掛け ・広報活動 ・活動内容の見直し
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント参加者の多くが祖父母と孫世代で、間年齢層の若者・親世代の参加が少ない。 ・自然に興味を持ってもらえる活動をしたいが、具体的に浮かばない。
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・食物店・飲食店のみが有利な街にならないこと。 ・市民自体の有り様の考え直し。
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティの再生。 ・出会いの場を再構築し、自分達が社会の中で置かれている状況を考える機能としての劇場の活用。
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・文化を媒体とし、観光・商工・地域社会など様々な分野と結びつき、コミュニティ形成、まちの活力醸成など豊かな町づくりに貢献する。 ・行政はこれらの活動の環境づくりでサポートをしてほしい。
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・阪神・阪神北の伝統を受け継ぎ、次世代への創造を作る。 ・地域の特性である吹奏楽（全国大会金賞受賞団体）、合唱の活用。
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・公を頼らず、各々が一隅を照らす気持ちで社会貢献をすること
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育の低下が青少年・若年層の多様な犯罪・非社会的行為などに影響し、根本的な人間関係構築を阻害すると考える。 ・次世代作りでは、各人の目的とスタンスを明確に認知し、行動できる中間リーダー育成の枠組みが必要である。
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響により、コンサートや演劇など全ての舞台芸術が、開催不可能になった。感染症が地球上からなくなる事はないので、パンデミックによる社会の不安や経済的ダメージに備えて、早急な万全の医療体制の構築が不可欠。

芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・小グループ、自治会での文化活動発表等、人々が身近に感じられる文化活動。家族や知人が出演・発表していれば身近に感じ文化活動に足を運びやすくなる。 ・病院、学校（生徒・学生）、老人施設、集合住宅の集会所などで発表会又はともに発表会をするなど共催、地域を巻き込んだ活動をし、子供の時から誰もが文化に触れることができる機会を提供していくことが必要。
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・「人々と文化芸術をつなぐ様々な方法を考えて実行し、人々の日常に文化芸術を織り込む機会・人・場を充実させる」ことをミッションに掲げ、「①子どもの育ちに寄り添う文化、②もっと身近で気軽な芸術文化、③親しみやすい西宮市文化振興財団、の3つの取組みを重点事業とし、企画政策や広報の経験の有する専門職員を新に迎えて事業を展開している。
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統と文化の薫る街づくりを目指し、歴史的場所などの掘り起こし。 ・尼崎寺町と連携した歴史などの勉強会。 ・地域とつながる音楽会、茶会や、写真展、絵画展の開催。
国際交流	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人支援団体と行政が連携し、作り手として外国人にも参加を促しながら交流の場や日本と外国の双方の文化・習慣の学ぶ機会の創出。 ・外国にルーツのある児童・生徒について、学校側の支援体制の整備や、母語支援員の派遣時間の増加等について、国・県レベルでの支援策。
国際交流	<ul style="list-style-type: none"> ・枠にとらわれない連携。 ・NPOなどしばられない団体がつなぎ役を担う。 ・外国の子どもの学習塾、大人の日本語教室など学習だけでなく様々な分野での相談のつなぎ役をしている。(教委、子育て、自治会、生活支援)
福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・次世代を担う子供に対する居場所づくりなど地縁組織(自治協議会)や、商店・事業所、子育て支援に興味のある人材が主体的に活動できるよう行政等と連携しながら、ネットワークを構築することが必要である。
福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物(外出)支援ネットワークの構築。(市町単位の社会福祉法人の連携、高齢者に対してのファミリーサポート、デマンド交通利用の負担軽減などの取り組みが必要である。)
福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・命の源である食は今後も変わらず、3つの柱を中心に多くの市民を巻き込み、楽しく調理し、食べる取組みの継続を目指したい。
福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・教養や趣味の範疇に収らず、学びから地域活動に繋がる人材育成の場が必要である。
福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方の顔と顔がつながる場面づくりをしていきたい。 ・高齢者サービスは財政面からも厳しい。施設入所の基準は要介護2から要介護3になり、介護予防サービスは市町に移っている。市町の財政力の差が出る。一定の質が確保できないといけない。介護予防サービスの支出が、介護保険波の支出がいつまで続くか疑問である。 ・団塊世代が互助的にすればいいというのが、互助になっていない。 ・訪問介護を在宅介護サービスの担い手としてどこまで使うか。財源の問題で、生活援助から身体介護に移っていないか。
福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・支援を受けるだけではなく、別のところでは支援する側になれるよう、全員が主体として参画できる社会を目指す。 ・行政やNPOは先導するだけではなく、黒子として引き出すファシリテーション力が大事である。

地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・サイクルステーションについては、兵庫県が事業者を公募し、民間が運営するべき。 ・自転車教室については、兵庫県、川西市と定期的に開催しているが、年間3回くらいしか回っていないのもっと広げていきたい。 ・自転車教室は警察と安全協会も行っているが、それとは差別化する。 ・開催する自転車教室は、実際の通学ルートを車載カメラで撮影し、危険な箇所などを解説する。子どもたちもより真剣に見てくれる。
地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・共働きや定年延長のため学校の見守りなど地域のボランティアの高齢化。 ・若い人が楽しそうと思えば参加し、PTAも、積極的に盛り上げる役員がいると、翌年は役員の選出はくじではなく立候補で役員が決まるので、活動的な人を巻き込みたいが、忙しい人が多いので難しい。
地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・現在は学生支援などを行っているが、今後そのような活動がなくなったとしても、人を育む取組は続けているだろう。 ・小学校6年、中学校3年、高校3年の制度は変わっているかもしれない。 ・働きながら学生をしている人が増えるかもしれない。 ・ICTなどの発達によって、行政が線引きした地域の概念はなくなるかもしれない。
青少年	<ul style="list-style-type: none"> ・各種団体の活動活性化をはかるため、各団体のキーパーソンへの支援や関係を深めると共に、活動補助対象の多様化をはかる。 ・広報支援、地域への認識を高める。 ・Webを活用した広報支援やITスキルの向上対応プログラムの実施。 ・地域での自治会活動への働きかけを拡大する。
青少年	<ul style="list-style-type: none"> ・人材確保のため、高齢者の活用や人材育成。 ・核家族の解消のために、地域内での世代間交流をし、地域トラブルの減少。
青少年	<ul style="list-style-type: none"> ・近い将来、子ども会組織は消滅し、公的な講習会、教室・趣味のクラブやスポーツクラブ・有料活動組織等に参加するようになると思う。 ・個人の思い及び意見が尊重され、地域づくりが難しくなるが、「喜び・やりがいを感じる」ことには人は動くので、行政の役割を市民に分担することにより、行政支援のもと行う方法を検討する。
社会活動	<ul style="list-style-type: none"> ・つながりカフェ(井戸端会議)を15年間続けているが、ZOOMに置き換えは無理。リアルな繋がりが今後も生きる。 ・いろいろな人が直接出会うに行く、気づきあう場がある、といった場をつくり続けることで何かを生む土壌になるので、このような場を提供するのが中間支援としての役割。 ・行政と市民をつなぐ役割も担っていく。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・「住みたいまち」の実現にあたり、まちの環境の持続可能性を高める「地域環境づくり(環境作り)」と未来のまちの担い手の「次世代の育成(人作り)」の2つを重点領域に、活動を推進している。 ・誰もが利用しやすいユニバーサルデザインの施設や設備の整備が必要である。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道高架下を利用した教育施設(武庫川女子大学)や野菜栽培所としての活用。 ・地域の子供を対象にした阪神電車まなび基地等、地域に根付いた取り組みを今後も取り組み、沿線と共に成長し続ける未来を目指す。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・地域を巻き込んだ芸術祭の開催。 ・地域の雇用を増加させるため、企業訪問を実施。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・当社一般路線バス車両では、バリアフリー対応車両の導入率は100%だが、ノンステップバスの導入を継続するなど、更に高齢者が利用しやすい環境作りに努める。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・安全面対応の対応としてMM活動、車両の安全装置などの高度化、運輸安全マネジメントの実践 ※MM活動・・・モビリティマネジメント活動。高齢者、学童を対象に安全教室を開催し、バスの死角などを知ってもらい事項防止に努め、あわせて利用促進活動も行い将来の公共交通利用者の創出に繋げている。 ・高齢化対応としてバス速転士の採用枠を65歳以上まで広げ、雇用創出に努めている。 ・次世代交通に関する取り組み(自動運転実証実験等)

産業	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街が取り組む事業への金銭的・人的支援 ・情報提供
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物難民を出さないためにも、地域経済を支えている小規模事業者が持続的発展をしていける地域社会づくりの取組みや行政施策が必要である。 ・地域における文化や伝統の承継や地域社会と住民とのコミュニティづくりの強化が図られるような取組みや行政施策が必要である。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・地域では、魅力ある素材を新しく発掘するため、共同作業（里づくり、環境美化、河川美化、祭り等）を通じて、互いが共に汗を流しながら働き、集える環境を創造し、お互いに経験・特技を聞き出せる人間関係の醸成を図り、発掘した素材を地域に還元していく。 ・行政がこのような活動を全面的に支援するために、活動資金としての足枷の少ない事業補助金を新設・拡充できるよう財源の確保を行う。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・猪名川町の特色や地域資源等を活かしたビジネスの創出・展開やソーシャルビジネス・コミュニティビジネスなど多様な起業・創業の支援。
ツーリズム	<ul style="list-style-type: none"> ・画一的な施策展開ではなく、地域ごとの実情に応じた取組みの実施。

設問5（阪神地域の魅力・地域資源）	
阪神地域の魅力や地域資源についてお聞かせください。また、これら阪神地域の固有性について、貴団体（個人）の活動時に感じられることがあれば、どのような場合が併せて回答してください。	
分野	内容
まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> 各都市によって個性がある。
環境	<ul style="list-style-type: none"> 大中小企業、官公庁、教育関係、個人事業者、畜産農業漁業従事者、海・山・川など全てが集積されている地域。 これらが隣接しており容易に行き来できる交通網がある。これらのパワーにより、色々な活動が生まれ、継承することが可能となる。
環境	<ul style="list-style-type: none"> 交通の便の良さ。 身近に自然の中でハイキングができる。 （福知山線廃線跡、夙川・武庫川・猪名川の河川敷）
環境	<ul style="list-style-type: none"> 自然環境に恵まれ、生活に最適な地域。 住民意識の高さ。 高齢者の増加。 住民減少による空き家の増加。
環境	<ul style="list-style-type: none"> 歴史
環境	<ul style="list-style-type: none"> 資源はあるが、伝え方が難しい。 （例えば、蛍の観測会を公開する（伝える）と人が集まりすぎて、地域から蛍を保護するため、そっとしてほしいと要望がある。）
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> 阪急沿線美術展。（以前あったと聞いている。） 市域を超えた交流。
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> 日本遺産に認定された「伊丹諸白」と「灘の生一本」。 下り酒が生んだ名醸地である伊丹と灘五郷。 経済力と文化力により、独特の風土を作り上げてきた歴史。
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> 小林一三が夢見た、壮大なロマンが感じられる摂津京。
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> 交通機関の利便性。
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> 多種多様な移動手段。
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> 文化を愛する人が多く、芸術文化も生活に浸透している。 芸術文化の愛好家の多くが高齢者のため、今回のコロナ禍の影響により、文化離れが進んでしまっている様で痛恨の思いである。
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> 阪神モダニズムの影響を受けた風光明媚な場所での文化発表は魅力の一つ。 京都・奈良等の歴史ある街に近いことから伝統的な文化に対する興味は人々の中に自然に宿っている部分もある。古くから人が住み都市が形成されたことで歴史ある文化が残っており、地理的にも大阪・京都などの玄関口であり様々な文化が栄えていたことが感じられる。
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> 阪神地域は「阪神間モダニズム」に見られるように、古くから文化芸術を大切にしてきた風土と歴史があり、多くの芸術家が在住、活躍している。このような地域資源によって当財団の事業が支えられている面があると思う。

芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 尼崎城や一ヶ所に日本一多くの寺社が集まった寺町を核として阪神間に存在する文化、物産の紹介や神戸、大阪、京都、奈良との立地を利用した活動が活性化につながる。
国際交流	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公園が多い。
国際交流	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住み続けている人と他から来た人が混じり合い、許容力がある。 ・ 外国人との付き合い、つながりにもよい影響をもたらす。 ・ ボランティアが自然と集まり、活動できるベースになっている。
福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な新しいものを取り入れようとする点や、主体的に活動する点。
福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農家の努力が上手くルートに乗り、消費者に届く方法を一考すべきである。
福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農家の地域活動(柿の木オーナー募集での柿の収穫、干し柿作り、新茶摘み体験等)により、地域になじむきっかけになるので、山間の魅力を伝え、転入する人を増やしたい。
福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・ 二大都市に近い。
福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・ 女性の起業家、意欲、スキルが高い人が多い。
地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 北摂地域に関してサイクリング目線では、自然豊か。 ・ 交通量が少なく適度なアップダウンがある。 ・ 大阪市から川西能勢口まで20分程度で、空港(伊丹)からもアクセスがよいが、インバウンドが未知数ではあるものの、サイクルレンタルの場所がないなど人の受け入れ体制がない。
地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人が明るくてパワーがある。 ・ 地域にはキーパーソンがいる。(清荒神参道や伊丹の朝マルシェなど)
地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生 ・ 日本酒 ・ 酒蔵
青少年	<ul style="list-style-type: none"> ・ キーパーソンの固定化。 ・ 地域で活動してもらえるキーパーソンの増大をはかっていく。
青少年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 恵まれた自然環境。 ・ 保護者に負担のかからない行事には、多くの参加者が集まる。
青少年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 南の子供達を北の自然の中で遊ばせたい。
社会活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ NPO活動者が多い。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住居・企業・商業の一体化。 ・ 企業・商業が栄える「町」のど真ん中に住みたいと思う人が多いわけではなく、住居は少し落ち着いた場所(緑豊かな場所等)を選びたいと望む人が多いと考えている。 ・ 「街」へのアプローチが可能な範囲に、住みやすい環境が整備されている。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 山と海に挟まれた文教地区が多い閑静な住宅街
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 芦屋や宝塚などに代表され、比較的ブランド力が高い地域であること。 ・ 比較的治安が良い。

産業	<ul style="list-style-type: none"> ・都市と都市の距離が近い(居住地としても利便性が高い) ・スポーツ・芸術などの資源が豊かである。(甲子園、宝塚歌劇、競艇、尼崎城など) ・豊かな自然(海、山あり)
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な観光地があり(宝塚大劇場・甲子園球場など)、臨海部や基幹道路、空港周辺には工業団地や物流施設が集積している。 ・鉄道インフラが充実しており京阪神や空港へのアクセスが良いので、都市部流出を抑制し、地域の活性化の一翼を担っている。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・利便性と自然のバランスが素晴らしい。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・今後は、観光その他により交流人口を増加させることで、事業者の持続的発展に繋げていく取組みが重要になると感じている。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・武庫川の景観(特に桜並木等)
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・自然を活かした経済活動(生活密着型商業の展開等)
ツーリズム	<ul style="list-style-type: none"> ・産業・文化・自然が混在し、交通の便が良い。 ・観光、居住の両方に合った、落ち着いた環境が整っている。

設問6 (阪神地域の課題)	
阪神地域がかかえる課題について、自由にお聞かせください。	
分野	内容
まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 阪神地域南部(都市部)と北部(山間部)の空き家問題に対する意識の違い。 ・ 南部は一般的に「売れやすい地域」であり、空き家問題に関しても流通に関することより相続や隣地トラブルによるものが多い。
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 御前浜・香櫨園浜の海浜植物の保全。 ・ 昔、今津浜にハマエンドウがあり、香櫨園浜にハマボウフウがあったと過去形にならないように、今ある海浜植物を保全する。
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 南部には大型商業施設や大病院が集中し便利だが、北部には南部のような施設が近辺になく不便である。買い物難民の対策が必要。
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少子化
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 里山は財産だが、人の手が上手く入り、加工して収入になるなど、生産性を生み出すようになれば、人の意欲につながるのではないか。
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の交流の場が減少し、街角での交流が必要。 ・ 交流のために植木やベンチが必要。
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1つの集団として括りにくい。
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政の都合で、地域の括り方が変わること。
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域活動の担い手、若手の減少。 ・ 集会場・稽古場・練習場の不足による技術芸術当の継承が難しく、新たな発想展開が必要。 <p>(苦慮している芸術家たちの支援策、アートビレッジ構想(練習村)長期間滞在型(絵画など大型200号以上)制作場所、楽器置き場付きオーケストラ・吹奏楽練習場、演劇練習など集団生活ができる練習場及び制作場。)</p>
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域・社会を構成する人間である事の自覚に対する希薄さ。
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民の高齢化 ・ 大雨の異常気象による川の氾濫や土砂崩れなど大災害の発生 ・ 大地震の恐れ
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 都市部特有の少子高齢化 ・ 近隣付き合いの希薄化 ・ 地域活動・ボランティア活動の減少
国際交流	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災対策(津波など)
国際交流	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢化に先見の明を持った対応が必要である。
福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市・町をまたいだ人材の育成や登用ができるよう、様々な情報通信技術を活用した取り組みが必要である。
福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・ 孤独死 ・ 空き家対策 ・ 非正規雇用に伴う賃金格差 ・ 生活困窮による要援護児童・生徒の増加。
福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の繋がり希薄さ。
福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究機関となる大学が阪神間がない。 ・ スーパーコンピュータ、スプリングエイトといったものがない。

福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・日中のボランティアがシニア ・空きスペースを確保するのに費用がかかる。
地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で活動する若い世代がない。 ・地域の祭りの減少。 ・自治会の役員が高齢化。 ・祭りの設営など民間委託の検討すればよい。
地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・行政が産業振興施策を行う場合、PR、イベント、補助金で終わってしまっている。今後は、別の方法も考えないといけない。
青少年	<ul style="list-style-type: none"> ・地域への愛着を深め貢献してもらえる気運を高めていく政策課題の達成が必要である。
青少年	<ul style="list-style-type: none"> ・個と地域の繋がりの希薄さ ・人材不足
青少年	<ul style="list-style-type: none"> ・都市部、農村部、住宅地域、商工業地域等、非常に変化に富んでいるので地域にあったきめ細やかな対策、 施策が必要である。
社会活動	<ul style="list-style-type: none"> ・行政では行き届かない隙間を支援することに対価を払う制度などが必要である。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・豊富な観光資源があるにも関わらず、日本政府観光局の調査では、兵庫県を訪れるインバウンド旅客は、ここ数年、訪問率に変化がない。 ・日本への玄関口である関西国際空港、大阪港から大阪-京都を訪問する、俗に言う“黄金ルート”から外れた感がある ・今回の新型コロナウイルス感染症の影響で途絶えてしまったインバウンド対策をリセットするなどの新たな施策を検討すべきと考える。 ・地形上、南北の移動が不便なため交通政策が必要。 (デマンドタクシー等の導入、将来を見据えた自動運転による 移動サービス等の導入実験) ・農業に適した地域が多いが、そのイメージ、ブランド力が弱い。 ・農業の持続可能な政策や他業種からの移転政策が必要。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・住みたいまちランキングで上位に名を連ねる西宮市や芦屋市といった地域が、住んで良かったまちランキングでは出てこないことから、事前期待度を上回る施策が打てていない。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・比較的ブランド力が局い地域であるが、全ての地域においてではなく、当社沿線である川西や猪名川となると、隣の宝塚に比べて急激に知名度やブランド力が低下するなどの地域によって格差が非常に大きいこと。 ・海岸沿いに観光・散策できる場所が少ないこと。 ・企業誘致など、東京圏に対して競争力をつけること。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・道路の慢性的渋滞(阪神高速、尼宝線等) ・大阪・京都と比較し、旅行者が少ない(観光資源が少ない) ・南海トラフ地震時の被害が東西の広範囲に渡って影響する。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少や高齢化が進む農村部や傾斜が多い山手地域では、生活に必要不可欠なものとして、誰もが移動しやすい交通環境が求められているが、バスの利用者の減少により、交通事業者の経営状況が圧迫され、路線の維持が困難となっており、危機的な状況である。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の人口減少。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・昔から阪神北地域と阪神南地域では六甲山系を境に日常の市民の交流ができにくい状況があり、中小・小規模事業者等企業間の経営上の交流についても同じような状況である。 ・このような状況を把握した上で、県行政の所管区域についても実態に即した見直しが必要と考える。

ツーリズム

・住宅都市としての側面が強く、観光を核とした地域経済の活性化が進まないこと。

設問7（地域における相互理解）

地域住民との交流や相互理解について、貴団体（個人）が心がけていること、また周囲で心がけていると評価できること、その他意見があればお聞かせください。

分野	内容
まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家は表面化した時には既にまちの環境を損なっている。 ・空き家の啓蒙活動も大切だが、空き家予備軍や隠れ空き家を掘り起こし、未然対策が重要である。そのため当法人では地域に寄り添う「空き家対策ナビゲーター」を養成している。 ・ナビゲーターは地域の一住民であり地域の情報が入ってきて吸い上げる役割でもあり、近しい相談者でもある。 ・また、一次相談者（窓口）となりNPOや自治体に情報を伝達する。
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・地元、よそ者、若者、先入観、固定観念、わだかまり、思い込み、誤解などを常に意識しながら協働、話し合い、会話と発信を行う。
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・情報交換
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校時の子供の見守り。
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・縦社会的に考え、発展がない。
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・子供に何をさせるか、何が向いているかわからない親子を対象にスポーツ団体と共に、10種類以上のスポーツ体験ができる場の設置。 ・スポーツの裾野の広がりとともに、スポーツを通じての地域交流を目指す事業を行っている。
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民と共同で何かを行う時は、共に1つのことを造り上げる関係を作ること。 ・準備段階から地域住民と相談し、相手方にもメリットがあることを理解してもらう。
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・年1回市民文化祭を開催し、三田市の文化活動を維持・発展させる。
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人県民との交流パーティーが、神戸市で定期的に行われているので、参加してコミュニケーションを深めている。
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・長年、培ってきた活動を継続するため、定期的に発表の場を設けているが、今後は小コミュニティとの交流を図っていきたい。
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・事業に出演するアーティストと参加者並びに参加者同士が交流できるような事業を実施することで、芸術文化を通じたつながりや、さらなる活動の広がりを生み出す場を提供している。
国際交流	<ul style="list-style-type: none"> ・“外国語が話せなくても「やさしい日本語」を用いれば外国人とお話できる”ということを日本人にPRし、参加者を募集。 ・日本人向けに外国の文化を紹介する講座を開催し、異文化を認めることのできる価値観を養う機会を提供している。
国際交流	<ul style="list-style-type: none"> ・文化や環境の違いを相互理解し、トラブルを未然に防ぐ。 ・外国人のゴミや音のトラブルについて、日本の習慣を最初に知ってもらう努力。（特にゴミは市町で制度が異なるので困難）
福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・つどいの場づくり。（例えば地域交流カフェや地域ふれ愛福祉サロン、こどもの居場所などのつどい場） ・各小学校区単位や、自治会単位での交流事業に対する支援。（赤い羽根共同募金の配分金や、歳末助け合い運動配分金などによる支援や、コミュニティワーカーによる活動支援。）

福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・トラブルを避けるため、住民の話を聞き、「どのようなことで来ているか」「どのような思いなのか」を理解した上で対応するように取り組んでいる。
福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・市の広報などを利用して調理を行い、幼稚園や学校などにも出向き、実践すること。
福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれができることをする相互運営も良いが、お客様として受け身ではなく、他人の世話をする方が張り合いがあり、元気でいられると思う。 ・食育活動を通じ、交流ができ、高齢単身の人に食事作りの実践を伝えることができた。
福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・施設が、こども食堂や様々なサークル活動の場となっている。 ・ベトナムの留学生、実習生を2年前から受け入れ、地域の防災活動に参加している。
福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・ハロウィンのイベントでは地域の企業とつながり、ママがスタッフとなりパパも参加するなど、規模も2000人となった。
地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶
地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・昔から住んでいる人が多いが、私自身は新しく転入してきた世帯で自治会に入っていないが、近所の人やすれ違う方と挨拶をするようにしている。 ・子供も徒歩圏内であれば、知らない人でも挨拶をしている。 ・近所の方が野菜を持ってきてくれる事がある。
地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・現場に行くことを心掛けている。行政、民間に関わらず、公表された情報に基づいて行動することが多い。当団体では現場に出向くことで、「社長の趣味は～で、長男が副社長、～な人間関係がある」などの多くの情報を得ることができる。 ・西宮市に163のNPO等団体があり、2年に1度は伺うようにしている。訪問によって、解散している団体、登記のない団体などが判明する。また、「理事長が亡くなって、その後どうすればよいか。」などの相談も受ける。
青少年	<ul style="list-style-type: none"> ・プライバシーを配慮した多様な地域ネットワーク社会の推進。
青少年	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信 ・自由参加 ・誰もが自由に集える雰囲気作り
青少年	<ul style="list-style-type: none"> ・当会では、会費及び市補助金等で運営しているが、事業展開において会員に限定するのではなく、可能な限り全ての子ども達が参加できるよう配慮している。
社会活動	<ul style="list-style-type: none"> ・つながりカフェなどの場づくり。 ・つながりカフェは指定管理者業務ではなく、NPO法人の独自事業である。 ・1つのコミュニティに1つのカフェがあるくらいが有効。 ・つながりカフェは、基本テーマを決めず行うが、テーマを絞って行ったのが好反応だったので、今後試していきたい。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・沿線の街歩き事業の実施により、地域の人々との連携や交流を促進し地域の活性化を図る。 ・日々の電車運行、既存の駅施設の改修、新しい路線の整備など、弊社で実施するあらゆる事業において、地域団体や自治体等と密に連携し、沿線がより住みよいまちとなるよう取り組んでいる。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・お客様満足度向上のため、お客様の声を参考にしたCS活動を実施。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・当社は地域交通を担う事業者である以上、沿線地域とは切っても切れぬ関係にあり、沿線住民とのつながりは非常に重要であると認識している。 ・「悠遊セミナー」（地域の方向けの講演会）や地域の子ども向けイベントとして「ハロウィントレイン」の運行等を行っている。

産業	<ul style="list-style-type: none"> ・西宮市、尼崎市と協力し、小学校で「バスふれあい体験」を実施している。 ・2019年4月には利用実績を基に尼崎市内線の路線再編を実施した。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・MM（モビリティマネジメント）活動として、高齢者、学童を対象に安全教室を開催し、バスの死角などを知ってもらい事故防止に努め、あわせて利用促進活動も行い将来の公共交通利用者の創出に繋げている。 ・イベント参画
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・商業活動 ・イベントでの交流
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・商工会は、地域の経済団体であり、地域の活性化という点で重要な役割を担っているが、より多くの事業者が商工会に属し、地域経済を支えていくことが重要であり、その結果として、地域貢献に繋がっていくと考えている。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・当商工会では、多様な人材が交流し、情報やアイデア共有できる拠点として、また起業家の掘り起こしからスタートアップ支援、アフターフォロー等の創業支援体制の充実と強化を図り、起業家の育成支援を行う「インキュベーション・コワーキングスペース」を開設する。 ・企業・創業を目指す若者が、その技能・経験を身に着けるため、市内多種多様な事業者が受け入れる仕組みづくりを模索するなど、自分自身が企業・創業する貴重な人材として市域の中で育ていけるシステムを構築する。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・既事業者と転入・転居などにより新しく町へ来られた事業者や起業した人との交流会の開催
ツーリズム	<ul style="list-style-type: none"> ・市民を対象にしたイベントの開催（宝塚歌劇市民貸切公演など）

設問 8 (人口減少社会における地域経営)

人口減少はマイナス面に着目されがちですが、一人当たりの社会資本や利用できる空間の増加、自然環境への負担軽減などプラス面も想定されます。こうしたプラス面を生かし、地域社会がより充実したものなるためには、どのような取組みが考えられるか、団体（個人）の立場から意見をお聞かせください。なお、兵庫県及び阪神地域各市の状況は別紙のとおりです。

分野	内容
まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・都会と田舎の2拠点居住や移住の増加。 ・以前テレビで徳島県と東京都においてどちらの小学校の授業も受けることが可能という連携が既に始まっているという番組を観たが、今後全国的に広げる事で2拠点居住が加速しやすくなる。
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数の子供達と自然にふれあい、輪を広げていく取組み。
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・住民減少による空き家の増加 ・利用できる空き家は自治体が借り上げか、買い上げをし、地域コミュニティの場所として提供する。
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・個人に対し、より細かな気配りや見守りの強化。
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・人口分布の差。 ・過疎地域にどう人を呼び込むかを考える必要性がある。
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・タクシーを簡単に利用できるようにする。 ・タクシーの近距離で可能な使い方を考える。 (運転手にポイントをつけるなど。)
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・文化芸術がソフト、ハードともに地域住民になくてはならない場所として活用されること。
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者割合の増加。 ・健康維持と生きがい発見のための文化活動の重要性が高まる。 ・税収が減少し、施設運営において市民力を活かす工夫が必要。
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・交流の場所である公立施設の老朽化問題。 ・市町村合併における公共施設の統合化・合併による減少を誘引。
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・元気に現役で活動出来る高齢者が多くなってきたので、高齢者も貴重な人材として、長く仕事に従事出来る社会になってきた様に思う。
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な年齢層の方々に文化活動に参加していただけるよう、小規模であっても地道な活動を続けていくことで、人口自体は減少しても文化活動に参加する人口を増やせるのではないかと考える。 ・これまで実施してきた定期発表会以外に、地域の小コミュニティ（学校、福祉協議会、病院、老人施設、保育所等）との交流連携に個人と向き合って取り組んでいきたいと思う。
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・文化活動のために活動する場所が必要。 ・現在空き家になっているお宅を自治体によって買い上げる取組みが必要である。 ・尼崎城の北東角か南東角のどちらかに日本の文化発信の拠点ができればと考えている。

国際交流	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人人口の減少とともに外国人労働者の受入れが活発化すると想定。 ・地域活動において外国人住民の参加を今まで以上に呼びかけることで日本人住民にとって次世代の地域活動の担い手が見つかり、外国人住民にとっては自己実現の場となる。
国際交流	<ul style="list-style-type: none"> ・地域では外国人労働者の増加が必要。 ・魅力あるまち制度を作り、呼び込むかを考える必要がある。
福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家を活用した地域住民のつながりづくり。 ・経験豊富な高齢者の力を地域に生かす。(地区ボランティアセンター) ・世帯単位の地域活動参加から、個人単位の地域参加を増やす。
福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・最後の住処として選ばれる魅力(便利・快適さ)作り。
福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代の食への関心度を高めたい。 ・手軽に入手できる食べ物ではなく、健康維持や高齢化社会において食の大切さという将来を見据える食文化について、今後も取り組みを通して伝えていく。
福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・介護業界のマンパワー不足だが、介護職員の処遇改善により収入がアップした。 ・介護に興味がある人を増やすことが必要である。 ・人口減少を補うため、外国人労働者の受け入れるとともに、外国人獲得競争に勝っていく必要がある。中国はベトナム人などを誘致している。 ・食物自給率をあげるため、空いた土地に農業、農業従事者を増やす必要がある。
福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・人にあわせて枠組みを作る。 ・個性や思いを尊重できる社会。 ・生活と仕事の境界線が曖昧になれば、趣味や地域活動などのサードプレイスが充実し、時間や気持ちにゆとりが出来る。
地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人に考えるチャンスが与えられる。
地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・宝塚市は、子供の医療費(中学まで無料)や給食(中学まである)では、大阪市など他と比べて整っている。 ・このような情報は、転入後にもらえる「たからばこ」には載っているが、若い世代は知らないなので、行政はPRするべきである。
地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・阪神南と阪神北の区分、中播磨、東播磨、西播磨、北播磨の区分などがなくなっていくなど、行政による線引きが薄くなっていくと思う。 ・オンライン会議などが増える中で、人と会う価値が上がる。 ・電気やガスのインフラをこのまま維持しようと思うと、人口が減れば一人当たり使用料が上がる。(韓国のように)家で作るより食べに行った方が安いということにもなり得る。
青少年	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの関心をもてる多様化した事業展開が必要である。 ・活動主体と地域住民が中心となる工夫が必要である。
青少年	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内での世代間交流に高齢者を活用する。
青少年	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の数が減少しているが、地域の大人、高齢者を含めた行事を行い、地域の活性化を推進する。
社会活動	<ul style="list-style-type: none"> ・いくつになっても収入源があり、そのような生き方が担保されるといい。 ・各々が別の方法で地域にお金を落せる。 ・小規模エリアでお金が環流することは、阪神北地域では可能では？

産業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通機関を利用する際の混雑が緩和され、運行本数の削減や混雑対策に掛かる費用の減少。 ・ 車内の混雑が緩和、買い物時の混雑もレストランでの待ち時間も無くなり、人との接触が減少し、ストレスが緩和されるので身体的、精神的に楽になり、子供への虐待やDV、パワハラなどが減少すると考えられる。 ・ 社会資本の維持のために、1人当たりの費用負担は増加(例えば、税金や鉄道運賃が増額)し、このことへの不満が出る。 ・ 費用負担増加問題を解消しながら社会資本を維持できれば、地域社会がより充実したものとなっていくと考えられる。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 更なる少子高齢化に備え、高齢者が働きやすい、子供を育てやすい街や制度を作っていたらと思う。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 空いた空間を活用した自然との共生が可能となる。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移動を1つのまとまったサービスとして提供し、1人1人のニーズに沿った事業を組み立てる。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 労働力確保のために、働く意欲を持つ高齢者や女性が働ける環境が整えられることで、世代・性別に関係なく活躍の場が広がる。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中心市街地居住によるコンパクトシティの実現。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・ IT・AI活用による生産性の向上に伴い、所得が増加となる取組み
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存ストックの状況に合わせたコンパクトなまちづくりへと発想を転換し、都市機能の無秩序な配置を排し、広域的サービスを担う商業、行政、医療、文化等の諸機能の立地を集約化した自家用自動車に依存しない都市構造を目指していく必要がある。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 猪名川町の特色や地域資源を活かしたビジネスの創出・展開やソーシャルビジネス・コミュニティビジネスなど多様な起業・創業の支援。

設問9（地域や社会の将来像）

地域、社会、行政の将来像について意見をお聞かせください。（自動運転、ドローン配達、テレワークなどテクノロジーの進歩も踏まえたこうありたい、こうなってほしいことなど）

分野	内容
まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ エネルギー ・ モノを所有する生活からリースなど持たない生活へ。 ・ 団体行動から個人行動に。
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道路・橋・ガス・水道管などのライフラインの耐久年数を考えた保全と安全維持。 ・ 都市公園の管理。 ・ 自然公園の環境維持管理。 ・ ボランティアに頼らない維持活動。
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ テクノロジーを活用し、他との繋がりを保ち、地域で孤立しないような取組み。
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業を法人組織で経営することで、生育状況の把握、重機の管理が可能になり、農家負担が減少する。 ・ 収入が安定し、安心した生活できるようになる。
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最近では表札を出さずに戸を閉め切っている家が多くあるが、より出入り自由な交流ができる家が増加するとよい。
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・ トヨタの「ウーブン・シティ」にあるような、社会のつながりがあらゆるモノやサービスにつながる「コネクトシティ」。 ・ 人や地域のつながりがテクノロジーの進化でどのように変化するか想像がつかない。
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICTや科学技術などを活用した業務の合理化。
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域から広域連携による祭典など地域活性化。 ・ 指定管理者と行政との役割の明確化。
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・ リアルタイムで画像や動画を使い、自宅で簡単にできるコミュニケーション手段の確立。
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回のコロナ禍で急速に在宅勤務が進んだことにより、家庭内のコミュニケーションが増えて良い結果であったので、このままテレワークが普通の日常になって行くと良い。 ・ 自動運転 ・ 自転車事故の多発への対策の加速。
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文化活動は、まずライブで共有するのが理想と考えるが、将来にわたりYouTubeの様なネットワークを通じ誰でもが気軽にどこでも文化に接することも大切。将来はどの家庭（高齢家庭）にも同じように情報が届くように技術が整備されていると想像する。
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文化芸術は決して一部の愛好家のものや、自分にとって遠い存在ではなく、生活の質（QOL）を高め、心豊かな生活を送るうえで不可欠なものであること、また、文化芸術が持つ社会包摂（social inclusion）機能により、様々な社会的課題を解決できる可能性があるという考えが広がり、定着している社会。
芸術文化	<ul style="list-style-type: none"> ・ テレビ会議。 ・ 東西の交通に関してはよいが、南北間の交通網の整備ができれば地域のつながりが広がると思う。
国際交流	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICT技術がより身近になり、遠隔地からの日本語教室への参加が一般的になる。

国際交流	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政は「心」を中心としたソフトの対応を中心にする必要である。
福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・ リモートでの意思疎通が可能になり、地域内での安否確認ができる。 ・ リモートでの会議が進み、必要時に、必要な人が、必要なだけの地域での協議ができる。
福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人との繋がりが地域へ広がり、見守り体制の構築が出来る。 ・ 見守り体制が市内を越え、近隣市との各種連携に繋がる。
福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・ レンジを使った安心安全(子供も高齢者も)な調理の普及。
福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自動運転者の普及。 ・ 高齢単身者は子供家族と日常ネットで生活見守りができると安心である。
福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域に帰ってくる人材づくり。 ・ テクノロジーの補助、研究、交流、つながりなどを行政がとりもってほしい。 ・ 若者はIT、テクノロジー関連業種に就業希望がある。 ・ 外国人労働者の子供達が活躍する地域社会でコミュニティが摩擦を軽減できるようになればよい。
福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・ アナログへの気付き。 ・ 都会でも静かに暮らす。 ・ ニーズの多様化により、個人に深く向き合える社会(サービス)。 ・ 量より質 ・ 数としての実績ではなく、誰か一人のためになることを問う評価。
地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自転車を通勤に使う人が増加したが、活用できるサイクルロードが少ない。 ・ 道路整備を進めて、エコ・サイクリングタウン川西を目指したい。
地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ あくせくするより、丁寧にゆったり心豊かなくらしができるほうがよい。 ・ 「ミニマリスト」まではいかないが、かかえこまずシンプルな暮らしがしたい。
地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ いくなど、行政による線引きが薄くなっていくと思う。 ・ オンライン会議などが増える中で、人と会う価値が上がる。 ・ 電気やガスのインフラをこのまま維持しようと思うと、人口が減れば一人当たり使用料が上がる。(韓国のように)家で作るより食べに行った方が安いということにもなり得る。
青少年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の安全施策として乗用者の自動運転や安全補助機能の充実。 ・ テレワーク機能を用いた社会参加の促進。 ・ マイナンバーの行政手続きの簡素化。
青少年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報の簡素化 ・ AIを活用したアナログ化(高齢化対策)
青少年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人づくりを念頭に施策の展開する必要がある。
社会活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市町単位(自国主義)ではなく、「阪神共和国」で連携できればいい。 ・ 空き家や単身高齢者宅で、ビジネスとしてワーキングシェアなどを行えば、安否確認や収入源になる。 ・ 働き方改革が良い方向に進めばいい。 ・ ジェンダー教育の視点はこれからも必要。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域コミュニティバスを自動運転で運行し、地域の住民の円滑な移動。 ・ 遠隔対話システムなどの導入により役所窓口へは行かずに、自宅で住民票の発行など必要な手続きが誰でも簡単に行える。 ・ テレワークが増え、リモート会議・WEB会議にシフトする。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1人1台スマートフォンを持つ時代が目の前にきていることから、開発されたテクノロジーや各社が独自で行っているMaaSの実証実験等を地域、社会、行政が三位一体となり一体感のあるものになればよいと思う。

産業	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少により、当社も含めた交通事業者の収支が悪化し、公共交通の運営が維持できなくなる恐れがあるため、将来的な地域交通の維持について、行政と事業者が一丸となり検討する必要がある。 ・今後高齢化がさらに進み、交通弱者がこれまで以上に増えることが見込まれるため、駅からの二次アクセスの整備等、高齢者の活動を支援する取組みについて、行政と事業者が一丸となって検討する必要がある。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通機関としては自動運転やMaaSの発展について産学官の連携ができることが望ましい。 ・当社としては同システムが発展していく中、「人」だからこそ可能なおもてなし部分について見つめ直し、顧客満足度を向上させ、地域にとって必要不可欠な会社であり続けたい。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・広域交流が促進されれば、救急医療、災害時の支援、緊急時の輸送機能の強化され、より安心したまちづくりが実現できる。 ・新たなテクノロジーの投入により、道路には維持管理の低廉化、簡易化と自動運転技術への適応が可能になり、交通インフラには安定的なサービスとシームレスな利用環境の整備、ラストマイル輸送の確保による高齢者にもやさしい移動環境ができ、地域全体として安全且つ安全なまちづくりに繋げてもらいたい。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・高速通信 ・AIの発達により、自宅で行政手続き、医療、仕事、買い物、レジャーが可能になる。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・AIとテクノロジーの進歩で、身体機能・知覚能力の増加など生涯健康を維持するための社会生活を補助できる機械開発。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化社会にとって生活基盤の中に安心・安全の確保 ・消費・公共交通・医療の分野で高齢者が容易に活用できる機能が少いので、不便な状況が改善されその地域に安心して住み続けることができる仕組みを地域の大学等を活用し、調査・研究することでそれを実現する仕組みを構築する。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい交通システム・交通モードの導入 ・多様な移動手段 ・自動運転 ・ドローンを利用した配達
ツーリズム	<ul style="list-style-type: none"> ・行政主導のまちづくりから市民や企業、行政が連携しながら地域課題の解決を図る協働のまちづくりへの転換が完了しており、新しい公共として機能している。